

心不全とは

常陸大宮済生会病院 内科医員 村松 宏紀



みなさんは心不全という病気をご存じでしょうか。名前は聞いたことがあっても、どういう病気かあまり知らない方もいらっしゃるかもしれません。心臓は血液を全身の臓器に送り出すはたらきをもつ臓器ですが、その機能が低下して呼吸困難やだるさ、むくみなどの症状が現れる状態を心不全といいます。心臓から血液を送り出す力が弱くなると血液の流れが滞って体に余分な水がたまりやすくなるのですが、余分な水が肺のまわりにしみ出すと肺水腫という状態になって息苦しくなりますし、足などに水がたまるとむくみとなって現れるというわけです。

健康だった心臓が心不全にまで至ってしまう原因はいろいろあります。心臓の血管が詰まって発症する心筋梗塞では心臓が大きなダメージを受けるので心臓のはたらきが低下しますし、高血圧症や弁膜症（心臓の中にある逆流を防止する弁のはたらきが悪くなる病気）にかかっている場合にも、心臓に負荷がかかり続けることで心不全を発症することがあります。そのほかにも、肥満、糖尿病、喫煙、運動不足などが心不全の発症に関連しているとされます。

多くの場合、心不全を発症した後に適切な治療を受けたとしても、心不全そのものがすっかりと完治するわけではありません。心不全を発症した後は少しずつ心臓のはたらきが低下するため、命にかかわることも珍しくありません。近年のわが国における死因別死亡総数の順位では、心疾患に

よる死亡は悪性新生物（がん）に次いで2番目に多いとされますが、心疾患のなかでは心不全による死亡が最も多く、毎年約8万人が心不全で命を落としています。

心不全の悪化を抑えるには、心臓にかかる負担をできるだけ減らすことが重要です。心不全を発症したことがある方は、主治医と相談して適切な治療を続けましょう。心不全を発症したことがなくても、高血圧症、糖尿病の治療を受けている方は、その治療が心不全の発症予防につながりますから、ぜひ根気よく治療を続けましょう。自分が高血圧症や糖尿病にかかっているかわからない方は、主治医に相談したり、健康診断を受けたりしてみてください。禁煙したり、適度な運動習慣を設けたりすることも大切です。

心不全は適切な生活習慣や薬物治療によってある程度は悪化を防ぐことができる病気です。いろいろなストレスにさらされながら、少しも休むことなくはたらき続けている心臓をいたわることが健康に長生きする秘訣といえるでしょう。



※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

■ 救急車以外
■ 救急車

